



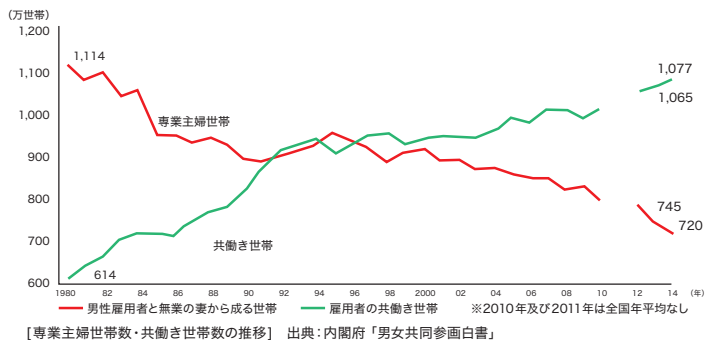
働き方が変わる、 オフィスが変わる

人 材育成と社員のモチベーション向上は、企業経営において常に挙げられる課題のひとつです。それらの課題は、政府が掲げる働き方改革の影響も受けてますます重要になる中、さまざまな対策を試みる企業も増えてきています。それには職場の制度やしぐみの見直しなどがありますが、ワーカーが高いモチベーションで生産性を発揮する働き方を実現するには「オフィスの快適性」という視点も欠かせません。

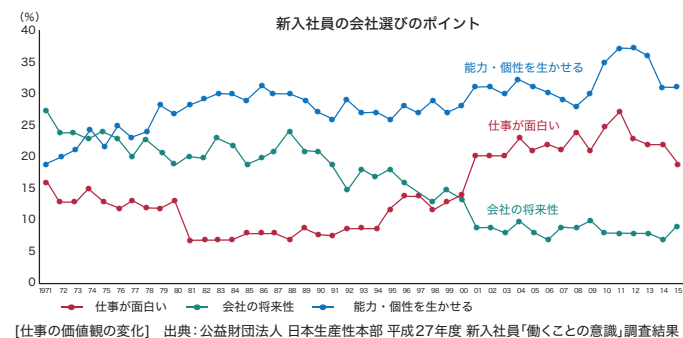
快適なオフィスが求められる社会背景

例えば、少子高齢化問題。2050年には、日本の総人口が9,700万人まで減ることが予想されています。そして、4人に1人がシニアという超高齢化社会に。国が少ない働き手で、いかに社会や経済を支えていくかという大きな問題に直面する中、企業は中途退職を減らし、優秀な人材に長く働いてもらうためにはどうしたらいいのかを考えなければなりません。

また、女性の活躍も注目されています。国の調査によると、共働き世帯と専業主婦世帯の比率は、1999年を境に逆転。働く女性が広く一般化し、2015年には前年比25万人増の2,754万人にまで達しています。それにあわせて育児休業の取得率も年々アップしているものの、6割の女性が出産を機に退社しているという現実もあります。女性がすぐれた労働力として期待されるなか、女性が活躍できる場をつくるとともに、子育てが必要な時期も働きやすい環境づくりが企業に求められています。



若い世代においては、働くことへの価値観に変化が見られます。たとえば、公益財団法人日本生産性本部が行った新入社員への調査では、会社選びのポイントとして「会社の将来性」よりも、「仕事が面白い」「能力・個性が活かせる」といった、仕事の中身を重視する傾向があります。会社の成長を重要視していたバブル世代の上司が、会社の将来のビジョンを掲げて「みんなで頑張ろう!」と熱く語っても、若者は自分にとってのおもしろさや成長を感じられなければ、チームで思いを共有するのは難しいかもしれません。



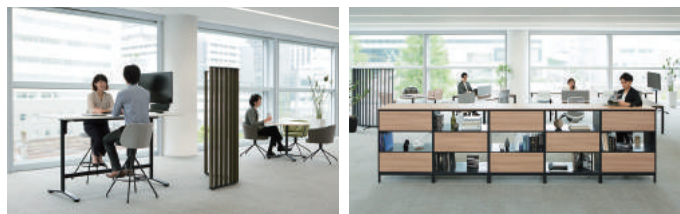
ほかにも「健康経営」に対する注目も高まっています。これは経済産業省が進める取り組みで、政府の戦略市場創造プランの中核となっており、今後さまざまなプランや制度の実施が予定されています。まず、2020年までに500社を「健康経営優良法人(ホワイト500)」として認定する制度がスタート。2015年の12月からは、職場でのストレスチェックの実施が義務化されました。これらの流れを受け、心身ともに健やかになれる働き方の実施やオフィス空間の構築など、積極的に健康経営の実現に向けた取り組みをはじめた企業も出てきています。

これらの社会背景やオフィス環境の変化から、これからの企業は多様な人材の個性をより尊重し、社員ひとりひとりがいきいきと働ける環境を整える必要性が高まっています。すでに、在宅勤務を採用する企業が増えたり、カフェやコワーキングスペースなど「3rdプレイス」と呼ばれるオフィス外のワークスペースが充実するなど、ICTの進化も手伝って、時間と場所にとらわれない働き方の実践が可能になってきています。新しい働き方の概念を表すABW(*注)という言葉も生まれてきています。ワーカー自身が働く時間と場所を選択して働けるようになっていく中で、オフィス環境がこれまでどおりの画一的なスタイルでは多様な人材を活かせることはできません。自席や備品が用意されている、空調が管理されている、清掃が行き届いている、といったような快適性は当たり前、これからのオフィスには、ワーカーの多様な働き方を受け入れる、新たな快適性が求められていくのです。

キーワードは「抜け感」

では、その「快適」とはどんなものなのでしょうか。コクヨはそのひとつに「抜け感のある空間」を提案します。抜け感とは、例えば、空間と空間を仕切るパーティションをルーバータイプのものにして、見通しを良くしたり、ミーティングルーム等をつくるときの境界も、天井までの壁ではなく背パネルのない書棚で区切るなどした空間のこと。向こう側が見通せて、別のエリアで仕事をしているワーカー同士がお互いの気配を感じながら働ける適度な開放感(抜け感)のある空間は、ワーカーをポジティブにし、モチベーションを高め、クリエイティビティを発揮させることができると考えています。

実際に、スチールパネルで仕切った「閉ざされた空間」と、背パネルのない書棚で仕切った「抜け感のある空間」で、ワーカーにアイデア出しをしてもらう実験をしたところ、書棚で仕切った抜け感のある空間のほうが有用性の高いアイデアが出やすいという結果も出ました。ワーカーに「いい仕事」をしてもらうためには、単に設備として空間を整えるだけでなく、はたらし心地にも配慮した空間づくりが大切なんです。



(*注)ABW:「Activity Based Working(アクティビティ・ベースド・ワーキング)の略。

ワーカーの行動(Activity)を最適化することを目的とする働き方です。もともとはオランダから始まった、時間と場所を自由に選択できるワークスタイルで、多くのグローバル企業を取り入れています。ABWは、働く時間も自由に選択して、オフィス内だけでなく、自宅やカフェや図書館などを働く場として選ぶこともできます。ABWを導入することによる企業のメリットは、在宅勤務を推進することによる不動産面やオペレーションコストなどの削減、また、自由な働き方を提供することで人材確保がしやすくなるなどのメリットがあります。

【執筆】

コクヨ株式会社 ファニチャー事業本部
事業戦略本部 提案マーケティング部

佐藤詠美

整理整頓が
どうしても浸透しない…。

会議が終わらないし、
決まらない…。

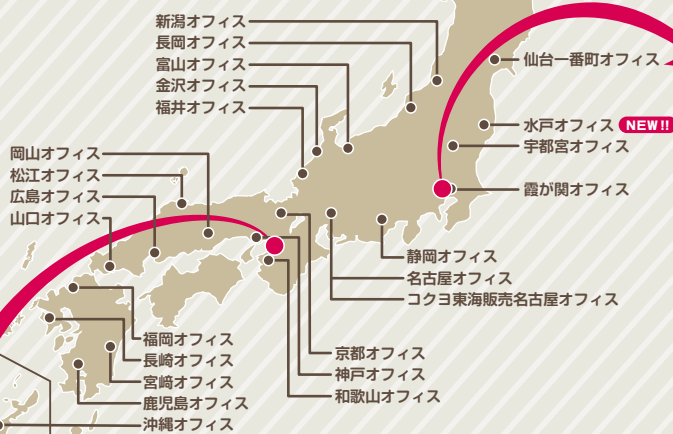
職場に会話がない。
活気もない…。



オフィスの課題を コクヨの「ライブオフィス」で解決！

LIVE OFFICE

実際に社員が働いているオフィス空間を
ご覧いただけるライブオフィスは
全国26カ所に開設しています。



「ライブオフィス」とは？

実際にコクヨの社員が働いているオフィスを直接
ご見学いただけます。

家具などのハード面だけでなく実運用などのソフト面を含めた、
オフィスに関する悩みや課題を解決するヒントが詰まったオフィス
です。カタログやWEBでは伝わらない、生きたオフィスを体感して
みませんか？オフィスのプロ集団・コクヨのライブオフィスへぜひ
お越しください。

2016年11月 RENEWAL OPEN!

品川オフィス

一人ひとりのエンゲージメントを高め
新たな価値創造に挑戦するオフィス

リニューアルにより「つながり力」を更に高めるゾーンと組織の
「突破力」を上げていくゾーンを構築。個人の快適性やモチベーション
アップに資するしかけをご紹介します。



SHIPP
Shinagawa Practical Place



Share Deck 社員同士の連携



Captain's Room



Crew Area 業務連携の加速

社員の
エンゲージメント向上

2016年12月 RENEWAL OPEN!

梅田オフィス

WORKSTYLE THEATER

より良い関係性を生むワークスタイルへ

快適なオフィスが良質なつながりを生み、社員のモチベーションが
高まる。もっと自由に、もっとアクティブに働きグループの一体感を
更に高めるワークスタイルへ！



Park cafe

社員同士の
一体感を醸成



Creative Work Zone

創造活動を
引き出す空間